

金城棟啓新頭取が就任!

琉球銀行は、平成24年2月24日、記者会見を行い、新中期経営計画「Break Through 2012」が4月からスタートするのを機に、4月1日付けで金城棟啓常務(当時)を頭取に昇格させるトップ人事を発表しました。

金城新頭取は記者会見で、「大城頭取(当時)の意思を引き継ぎ、お客さまに愛され選ばれる銀行を目指し、危機意識とスピード感を持って真摯に変革を進めていきたい」と抱負を述べました。

大城前頭取(現相談役)は、公的資金導入から2年後の平成13年に頭取に就任し、在任期間中に資産の健全化などの経営改革を推し進め、平成22年7月に公的資金を完済したほか、コンビニATMの積極展開や新店舗の出店、広域ブロック制度の導入など新施策を次々に打ち出し、営業改革を実現しました。

「りゆうぎん」はこれからも、地域に根ざした銀行として、迅速に質の高い金融サービスを提供し、皆さまから「選ばれる銀行」を目指してまいります。



記者会見で固い握手を交わす金城新頭取(左)と大城前頭取

「動産・債権担保融資」でりゆうぎんの活動を評価

琉球銀行は、「地域密着型金融」における「不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資手法」、「中小企業の資金調達多様化」の一環として、「動産・債権担保融資(ABL)」の推進に取り組んでいます。

平成24年3月、その取り組みが、「地域密着型金融」の「中長期的な視点に立って組織全体として継続的に推進している取り組み」として、内閣府沖縄総合事務局から顕彰されました。

これは、地域金融機関が取り組む「地域密着型金融」の事例の中から、特に先進的な取り組みや、広く実践されることが望ましい取り組みを金融当局が選出し、年1回顕彰するものです。

「動産・債権担保融資(ABL)」は、企業の事業価値に着目した融資で、不動産を十分に持たない中小企業の資金調達の多様化に資するものとして注目を集めています。

琉球銀行では、今後とも「動産・債権担保融資(ABL)」などの新たな手法を積極的に活用し、県内中小企業の資金調達ニーズに多様な手法でお応えすることで、地域経済の発展に貢献してまいります。



沖縄総合事務局長より顕彰状を受け取る大城前頭取(写真左)

